

令和3年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(仙北市)

1 市の概要(人口 24,956 人)※令和3年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和3年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0園	0園	5園	3園	0園	0園	6校

その他： 事業所内2 家庭的保育事業1

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 各年齢層での経験にばらつきがあり、保育の中で子どもの内面を読み取ることや、若手への指導に自信が持てずにいることも多い。管理職・中堅保育者の育成や、保育者の質の向上に向けて取り組むことが課題である。また、育児休暇明けの未満児の途中入園希望者や、個別での関りが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も課題のひとつである。</p> <p>(2) 幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育・授業参観後の協議には至っていない現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについての育ちの協議ができるように教育委員会と連携した相互理解のための体制作りをしていきたい。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<p>社会や保育の変革に対応し、教育・保育の質の向上、教職員の資質向上、園内リーダーの養成等は重要である。そのためには教育・保育アドバイザーを継続配置することにより、市としての幼児教育推進体制を機能させ、本市の抱える教育課題の解決に向けて一層の指導や支援をしていく。</p>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実(幼小接続の連携体制の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育総務課・北浦教育文化研究所と子育て推進課との連携体制の構築 <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援(園内研修、保育実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て推進課に教育・保育アドバイザーを配置し、定期的な就学前施設訪問による園内研修支援 <p>(3) 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設の課題に応じた研修会や公開保育研究会の実施 <p>(4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修(取組)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携に関する研修会、教職員の体験事業の実施 <p>(5) 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加 ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザーと情報共有 	
年度別重点	
令和元年度	<p>就学施設の巡回により、信頼関係の構築を図る。園の課題を明確にしながら指導援助を行うほか、保育実践を見直しスキルアップを図る。</p>
令和2年度	<p>経験年数を見据えた研修会や、保育者の専門性を磨く研修を提供しながら、保育の改善と向上を目指す。</p>
令和3年度	<p>就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取組体制の構築に努める。</p>

4 令和3年度の具体

目 的

(教育・保育の質と専門性の向上)

県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。

「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。

(幼小連携の強化)

当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。

実施内容及び実施状況 ※追記、写真にタイトルをお願いします。

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

部局間連携による教育・保育推進体制の充実（幼小接続の連携体制の強化）

- ・教育委員会と子育て推進課の連携体制の構築（継続）
- ・昨年に引き続き学区内施設訪問に、園長等も同行できるように調整を図る

① 教育委員会学校訪問に同行する。

R3.6月29日(火)	桧木内小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
	西明寺小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
R3.7月5日(月)	生保内小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
R3.7月8日(木)	神代小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
R3.7月12日(月)	白岩小学校	教育委員会・教育委員・園長1名・アドバイザー
	角館小学校	教育委員会・教育委員・園長4名・アドバイザー

○全学年の授業参観をしたり、教育委員の感想を聞いたりすることで、同行した園長も小学校の現状を知ることができた。

○時代の流れの中で授業の仕方は変わってきているが「子どもの意欲を引き出す」「自分の考えを発表できる・発表を聞くことができる」等目指す子どもの姿は、園が日々考えて保育していることにつながり、小学校の先生達と共通理解を深めることの大事さを一層感じる機会になった。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる園への支援（園内研修、保育実践）

- ・定期的な園内研修支援（研修の取り組み、事前の研修内容を含む）
- ・各園の課題を明確にし、課題解決に向けての園訪問を継続する
- ・保育実践の見直し（指導計画等）、保育参観からの保育の振り返りの指導・助言を行う
- ・新規採用保育者、保育補助との個別面談・支援の構築を図る
- ・副園長、ミドルリーダーの育成を図る

○園内研修支援：話し合いの視点をどこにおくか、参観者への付箋の書き方の伝え方をどうするか等、事前に研修委員達が話し合いを持つことで、研修の内容を深めようとする意識が高くなってきた。アドバイザーも事前の打合せに参加する機会が増えたことで、当日の研修での進行や記録担当者からの意見をより具体的に聞くことができるようになってきている。

○保育を公開した保育者と振り返りの時間を、後日持っている。協議で話し合われたことと、当日の振り返りから遊びの中で経験していることや手立て等を確認しあうことも保育の効果的な方法になってきていると思われる。

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（仙北市）

⑥派遣実績 計17施設/全17施設 226回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園：公立 3園（56回） ・ 幼保連携型認定こども園：公立 1園 私立 4園（159回） ・ その他の施設：（事業所内保育施設2か所（0回）、家庭的保育施設1か所（1回） ・ 小学校：6校（10回）
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、8園（89回） ・ 公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、8園（24回） ・ 個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、8園（70回） ・ 状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園（52回） ・ 周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、11園（32回） ・ 県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園（9回） ・ 幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校（27回）
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園訪問を継続し、保育者の課題に添って支援をしながら、一人一人の保育の質の向上に努める。 ・ いろいろな立場での相談を受けることも多く、個別相談や経験年数に応じた研修企画に努める。 ・ 周知活動では、アドバイザーの活用法の例示をしながら、アドバイザーの活用範囲を広げていく。 ・ 園内研修へのプロセスに係ることで、研修の充実を図る。

○アドバイザーの周知説明のため、アドバイザーの役割、仙北市の研修計画の日程等を紙面に記載し各園に配布した。様々な場面でのアドバイザーの活用方法を周知したことで、管理職から保育者までいろいろな職種の立場の方々から話を聞く機会が増えた。

△保育者から指導計画のねらいや、子どもの今の姿の捉え等の相談を受けた時に、保育の振り返りや話し合いで「気を付けていきたいことや気付かなかった点」を説明しているものの、保育者に継続して支援する難しさを感じている。

保育者の課題を園に明確に伝え、園での支援の継続を図ることも必要と思われる。

<園内研修>

○今までの園内研修を見直し、保育の話し合いを深めるために各園で研修時間の確保や進め方を工夫しようとする姿勢が見られる。保育参観後、当日のねらいを軸としながらKJ法での協議は、研修を終えた後も園内研修委員での振り返りの時間を取りPDCAサイクルをまわし、改善に活かそうとしている。

- 公開保育での振り返りは、KJ法の付箋の書き方や付箋を出す時の話し方等、課題意識は出ているものの次回の研修になかなか結びつけることができないでいる。
- 保育の振り返りがそれぞれの遊びに関わる子どもの姿であったり、遊びの盛り上がりになったりしてしまうことが多い。その遊びを経験させることで何が育つことを意識しているか、ねらいを達成させるためにどんな手立てをしたのかを話すことができるように意識させていきたい。

△園内研修の内容に応じた支援については、何を視点に話し合うかを明確にしながらアドバイスができるように心がけている。

しかし、十分な関りができているかは課題も多くアドバイザー自身の自己研鑽の部分も大きいことを感じ努力していきたい。



神代こども園<園内公開保育3歳児>

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり

- ・園や保育者の課題に応じた研修会や公開保育の実施
- ・キャリアステージごとの研修確保や、保育者のニーズに応じた研修に努める
(ファシリテーター研修、保育補助者研修会開催)
- ・ミドルリーダーの育成、副園長等の研修(会議)を実施する

◇保育補助研修会 R3.5月11日(火)

※子どもの発達理解と内面理解を深める

(参加者 22名) 補助職員16名・用務員1名・副園長5名

「子どものよりよい生活のためにII」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

アンケート結果

① 満足	② やや満足	③ やや不満	④ 不満	※記載なし
21人	0人	0人	0人	1人

<参加者の感想>

保育補助職員

- ・子ども一人一人の発達の速さが違うのは当然で、一人一人に合った声かけや援助が大切ということを改めて学ぶことができた。オムツ交換時は、いつも「トイレに行こうね」と誘導する声かけしかしていなかったため、次からは「スッキリしようね」等の声かけを大事にして子どもが「快」を感じるための援助を心がけようと思う。また、子どもの姿を発達していく姿と捉え、子どもの特性を十分に理解して子ども達の視点に立って保育に取り組んでいきたい。

副園長

- ・保育教諭・保育補助等の職種に関わらず発達理解と内面理解について、保育の根本的な基本が本当に伝わってくるわかりやすい内容で、初心に戻るような気がした。
- ・保育の中で、保育補助職員の力に助けられている。実際は、苦勞されている点や働きにくい状況があると思う。普段のコミュニケーションを大切にしながら、保育補助の立場の思いに寄り添っていけるような関係を築いていきたいと思った。



保育補助研修会
令和2年度より継続

○昨年に続き、継続して開催。今年度は、園運営に関わる立場の副園長の参加も募る。研修会から、管理職の立場で保育補助の役割や保育の中での子ども理解等について見直すことが大事であるということを感じることができたという感想が多く、職種に関わらず子どもをいろいろな視点から見えていくことの意識が高まったと思われる。

△園生活では、様々な職種の職員が子ども達に関わっていることを考慮し、今後、給食職員、用務員等も含め研修の内容や研修参加について園への働きかけも工夫していきたい。

◇ファシリテーター研修会① R3.5月13日(木)

目的：園内研修(研究)の考え方や進め方を学び、
保育者の資質の向上を高める。

「園内研修の進め方」について

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

(参加者20名)

<参加者の感想>

- ・FCの役割の難しさと同時に、研修を進める上で重要な存在であることを改めて学ぶことができた。すぐには上手く進めることができないと思うが、ポイントを押さえ、周りの参加者に助けをもらいながら、経験を積んでいきたいと思った。



ファシリテーター研修会<グループ発表>

○講師の資料がとてもわかりやすく具体的であることから、園内研修で活用していくという声が多く聞かれた。資料を読み解きながら自分の実践につなげていこうする意欲が感じられる研修会になったと思われる。

◇保育補助研修会 R3.5月18日（火）

目的：子どもの発達理解と内面理解を深める

（参加者23名） 保育補助職員名・栄養士1名・副園長7名

「子どものよりよい生活のためにⅡ」

講師 秋田県教育庁南教育事務所 幼保指導員 伊藤 トシ子 氏

アンケート結果

① 満足	② やや満足	③ やや不満	④ 不満
23人	0人	0人	0人

<参加者の感想>

保育補助職員

- ・災害の事例を聞き、改めて子ども達が安全に過ごせる環境作りと事故の大小を問わず、その場でとどめず普段から十分に目と手をかけ子どもを守るために危機管理をしっかりしようと思いました。保育をする中で、子どもに信頼してもらい、子どもを信頼し子どもの立場になって内面をから見る事、一人一人の発達などを理解し大事に丁寧に援助していきたい。

副園長

- ・今回の研修は、保育者も保育補助も、子どもの命を守り子どもの思いに寄り添い、ひとつのチームとして働くことを再確認できた研修でした。明日から働くことに意欲と喜びをもって子どもに関わることが、園全体の質の向上になると思いました。

栄養士

- ・保育に関する話を聞く機会がなかったので、今回分かり易くとても心に響きました。子どもの目線に立って関わり、内面をよく理解できるように子ども達から何かのサインが出ていないか、いつもと様子が変わらないか等注意を払い、毎日楽しく前向きに頑張りたい。

○事例から普段の保育に照らし合わせて考えることで、自分の声のかけ方や今まで接してきた場面を思い出しながら保育の振り返りができたことは、大変有意義な時間になった。子どもの発達や内面の読み取りがすぐできなくても、まわりの保育者と一緒に考えていくことの大切さが伝わったようであった。

○保育補助職員には、個別の悩み相談を受けることも多かったが、保育の場面を捉えながら子どもの発達に応じた援助や遊びの中で経験していることを一緒に考えていくことが、日々の子どもの理解することにつながるという研修会になったことが成果であった。

◇ファシリテーター研修会② R3.5月21日（金）

目的：園内研修（研究）の考え方や進め方を学び、保育者の資質の向上を高める。

「園内研修の進め方」について

講師 秋田県教育庁南教育事務所

主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

（参加者20名）

<参加者の感想>

- ・ファシリテーターとして、参加者が主体的に考え、より考えを深められるように意識しながら進めていきたいと思った。各学年の発達を捉えることの大切さを痛感した。みんなで考えられるよう視点を示し、みんなの思いや考えを引き出し、鍵となる発言を取り上げて広げていくことから気づき、



ファシリテーター研修会
～グループ協議～

学びになる協議を目指したいと思った。

○役割分担を決めてKJ法を進めていく中で、進行・記録者達はやり方を悩む姿もあったが、講師からアドバイスをもらい、より具体的な課題をみんなで考える有意義な時間になった。
△子ども達への関わりや援助、環境の構成等をKJ法で話し合うことの良さや視点の持ち方を捉えつつ、保育に対していろいろな意見が出されるKJ法で話し合いをする園が増えている。しかし、参加者からの意見が多く出されることを良しとしている園も多く、当日の保育のねらいや研究の視点に合わせた話し合いに迫るためにも、KJ法の演習の仕方を各園に伝えながら、園で話し合いの工夫ができるようにしていきたい。

◇保護者支援・子育て支援（参加者18名）R3.7月21日（水）

目的：保護者等の関わり等についての知識・技能を高め保護者支援・子育て支援等に反映することができる。

「保護者支援・子育て支援」

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 准教授 蛭田 一美 氏

<参加者の感想>

- ・子育て支援とは、目の前の相手が必要としているときを共に「歩む」ことであり、「保育者支援」と「保育」はひとつのものであることを学んだ。これまでの経験と勘で保護者支援をするのではなく、一人一人の困りごとや悩みに丁寧に寄り添い、保護者が自信をもって子育てに向かうことができるように子どもの良い姿をたくさん伝え、成長の喜びを共有していきたい。
- ・演習を通して日常の何気ない行動や視線一つをとっても相手に与える印象が大きく違う事がわかった。子どもはもちろん保護者に対しても肯定的な気持ちで相手を捉え「目つき」ではなく「温かなまなざし」を向けながら、信頼関係を築いていくことができるように意識して実践していきたい。

△家庭環境が多様化し、それに伴って子どもの生活体験も多様化している。

保護者のニーズも多くなり、子ども一人一人に寄り添うように、保護者にも一人一人に寄り添っていくような支援を考えていくことが重要という視点から、保護者支援の研修に期待が寄せられている。

◇園長研修会 R3.7月29日（木）

目的：保育所・認定こども園等の運営や諸問題について識見を高めるとともに園長としての資質の向上を図る

（参加者園長 7名）

「園長の役割について」～組織のトップとして～

講師 仙北市子育て推進課 特別支援相談員 相澤 克彦 氏

<参加者の感想>

- ・講師は自分達にとって身近な親しみのある方であり、実体験を基にした講話はとても分かりやすかった。園の総括責任者であることを常に意識して副園長と協力し合いながら、職員間の連携を大切に大人も子ども達も楽しく生活できる場を作っていきたい。講師が行った企画・体験は子ども達にとっては学校の勉強よりずっと心に残ると思う。「子ども達の意見を聞いて、やりたいことをやらせる」という点において園の子ども達にも通じることであり、講師の子ども達への思いを受け継いでいきたいと思った。
- ・園運営・保育全般について多方面から物事を見ることや、責任の重さを感じながらも具体的な取り組みの講話を聞いたことで自分の信念をしっかりと持ち、がんばっていかねばならないと身にしみて感じた。

- 講師の体験や子ども達との具体的な取り組みの事例から、管理職として大事にしなければならぬ心の持ちようを学び、園長が改めて自分を見直す研修になったようだ。
「早い時期に開催してほしかった」という参加者の声があり、管理職としてどのような園経営を目指していくのかという研修の開催時期を今後考えたいと思う。

◇仙北市の研修会について <園長：アンケートからの意見>

- ・保育補助研修は、内容も良く今後も継続してほしい。
- ・昨年は、副園長研修会があり、副園長としての役割について学びも大きかったので、ぜひまた開催をお願いしたい。
- ・毎年、様々な職種の研修があり、仙北市内で研修に参加できることはとても意義が大きい。これからもお願いしたいと思う。
- ・キャリアアップ研修にある「保育実践」の研修が少なく、なかなか参加できずにいるので、仙北市内で研修会があればいいと思う。
- ・キャリアアップのための研修も良いが、年齢別や職種部門別の研修があればさらに情報交換や交流ができ、ステップアップにつながるのではと思う。

◇乳児保育研修会（参加者18名）R3.10月22日（金）

目的：乳幼児の発達過程を踏まえ、養護と教育が一体となった保育について理解を深める。
「乳幼児の主体を育む保育」～育ちを支える環境の構成と保育者の関わり～

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

（参加者18名） アンケート結果

⑤ 満足	⑥ やや満足	⑦ やや不満	⑧ 不満	※記載なし
17人	0人	0人	0人	1人

<参加者の感想>

- ・講師の先生の生のお話は、やっぱり良いな。と思いました。どれも、心が熱くなるような、やる気が出る講義でした。
- ・演習では、実際に子どもの姿を想像し、動画を見たりすることで、普段何気なく使っている素材でも様々な発見や感情が生まれることが発見でき、同じ行動でも子どもの思いは違うことを改めて気づくことができました。

○0歳児～5歳児のそれぞれの育ちを理解するキーワードを持ちながら、保育の中で大切にしたいことが心に刻まれた講義・演習になった。

△参加者から「もっと、話を聞きたかった」という声が多く、内容と共に研修時間の設定も考えていきたいと思った。



保育の中で大切にしたいこと～保育者の視点を考える～

□中止した研修会

◇実技研修会

講師 学校法人聖園学園 聖園学園短期大学 教授 内藤 裕子 氏

◇特別支援研修会

◇ファシリテーター研修会③R3.10月～延期 R4.2月15日（火）

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

○コロナ禍の中でほとんどの研修がWebになっていることから、仙北市内で研修を受けることができることは大変有意義であった。

△仙北市内で新型コロナウイルス感染者が急拡大し、小、中学校3校の休校により来年度に延期する。延期や中止を決定する判断の難しさを痛感し、更に情報を収集しながら感染防止対策に努め、研修会を開催していきたいと思う。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加して、課題になることを一緒に考えていく
- ・幼小連携に関する研修会（公開研究会を開催）
- ・幼児教育に関する専門性の向上を図るとともに、子育て支援、家庭教育の推進を図る
- ・幼小連携に関する研修会

○仙北市は、小学校と園が同じ学区内にある。小学校、園の交流は毎年行うという基盤ができており、話し合いは4月、5月に行っているが、行事の中で子ども達の交流が主になっている。

●幼小連携の大切さは双方で認識しているものの、行事や時間調整がからみ難しい。
3月に子どもの育ちを伝え合うというよりは、子どもの情報提供が多い話し合いになっていることが現状である。

△公開保育、授業参観を通して「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して、子どもの育ちを捉える場や子どもの姿から具体的に話し合うことが、今後双方の教育理解につなげるためにも必要なことと思われる。

◇就学前・小学校仙北市合同研修会 R3.10月12日（火）

午前 にこにこ子ども園公開保育

午後 講話・協議 KJ法による協議

講師 秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 斉藤 丈彦 氏

△新型コロナウイルス感染者の急拡大により、来年度に延期する。

管理職による教育長への「就学前・小学校合同研修会」の趣旨説明と全小学校からの参加のお願いをしたことにより、研修会への理解を深めてもらうことができ、これまでに無い大規模な幼小の連携についての研修会開催準備を進めていただけに残念だった。

○講師をお願いしていた主任指導主事から「幼小連携体制チェックシートの分析や課題、アンケートの集計結果及び資料」をいただき市内小学校6校・8園に紙面で配布することができた。今後、各小学校や園で活用されていくことと思われる。

◇小・中仙北市教育研究大会（教育委員会主催）R3.11月8日（月）

市内各校（オンラインで開催）

（研究校：仙北市立桜木内小学校、仙北市立桜木内中学校）

研究テーマ

「自ら問いを發する子どもの育成～9年間の系統的な指導の在り方の工夫～」

参加者：市内中学校（ 校）市内小学校（ 校）

市内園職員（21名）

教育長、教育委員会、教育委員、教育・保育アドバイザー

<参加者の感想>

- ・研究校が自園とつながりが深い2校ということで、興味深く研究を聞くことができた。園・小・中へと育ちの理解の幅を広げ、育ちの連続性を大切にできるよう連携を深めていく必要があると感じた。
- ・自ら問いを發する子どもの育成の研究実践や発表を聞き、9年間の取り組みの前には園での遊びや学びがあり、その基礎となる育ちを支えるために何が必要なのか、どんなことができるのか職員で話し合う機会となった。発見したことや疑問に思ったことはもちろ

ん、どんなことにも安心して表現したり、話したりすることができる子どもに育てていきたいと思う。

○オンラインで開催された研究大会であったが、各園からたくさんの職員が参加できたことは幼小連携を考えるうえでとても大きな取り組みになった。研究テーマや子どもの実態を踏まえた発表は、園の研修と重なるところが大きく就学前にできることをしっかり培っていくことが大事であることを再確認することができた。

◇仙北市立角館小学校校内授業研究会（国語科・外国語科）R3.11月18日（木）
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 山口 晃正 氏
仙北市教育委員会北浦教育文化研究所 指導主事 門脇貴一郎 氏
授業参観：（1年生・6年生）、午後の協議
参加者：市内園職員（4名）教育・保育アドバイザー

◇仙北市立白岩小学校指導主事訪問（生活科）R3.11月22日（月）
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 物部 長秀 氏
授業参観：（1年生）、午後の協議
参加者：市内園職員（9名）教育・保育アドバイザー

◇幼保連携型認定こども園仙北市立角館こども園 R4.1月12日（水）
5歳児保育参観・角館小学校との協議
参加者：角館小学校4人・園7人・教育委員会2人・アドバイザー
教育長（保育参観のみ）

○子育て推進課と教育委員会の連携が課題の一つであったが、指導主事訪問や園の公開保育の時に教育委員会と課がやり取りし、園や小学校に案内することで市内の参加者を広げることができた。

R4.3月 各園・小学校情報共有

- ・仙北市子ども家庭総合視点拠点（R.4月1日 子育て推進課に設置）
- ・教育委員会・園・保健課・子育て推進課

- ・就学前児童に関する支援機関連携会議（事務局：子育て推進課（家庭援護係）

R3.4月27日（火）事務局・北浦教育文化研究所・市内8園・アドバイザー
R3.7月6日（火）事務局・北浦教育文化研究所・市内8園・アドバイザー
R3.10月12日（火）事務局・北浦教育文化研究所・市内4園・アドバイザー
R3.10月13日（水）事務局・北浦教育文化研究所・市内4園・アドバイザー
R4.1月21日（金）事務局・北浦教育文化研究所・市内8園・アドバイザー

○子育てに関わる機関との連携体制が広がり、連絡会議を開くことで、子ども達の様子やケース事例によって専門の視点から話し合いが持たれるようになってきた。

- 子ども達の様子を伝え合うことに時間が長引いてしまうことも多くなったため、10月の会議を地区ごとに分けて行う。支援機関に名前が出てくる子どもの数も多くなってきている実態を踏まえ、会議の時間や内容の持ち方を検討していく必要がある。

◇どれみの会（月2回の就学前児童の療育訓練事業（子育て推進課主催）

通年 講師 宮川 貴子 氏
 年2回（音楽療法）講師 日沼 郁子 氏
 年2回 講師 成田 ひとみ 氏・平岡 千寿子 氏

（アドバイザーが関わったどれみの会）

5月14日(金) 7月9日(金) 7月26日(月) 8月3日(火) 8月19日(木)

10月8日(金)10月25日(月)1月14日(金)1月24日(月)

○参加した親子の様子をアドバイザーが入所園に伝えることで、その子を中心とした訪問や保育参観での子どもの様子と合わせて園と話ができるようになってきている。

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・ 県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加
- ・ 南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザー、他市アドバイザーとの相互研修、情報共有
- ・ 指導主事、及びアドバイザーによる研修会等の情報共有により専門性の向上を図る

○指導主事訪問後にアドバイザーが訪問することで、園や保育者の振り返りを聞くことができています。指導主事や幼保指導員に同行し、学んだことを広めたり、様々な面で園へのサポートを考えたりできています。

○Web研修で、一緒の場で研修を受けながら参加の保育者と話題が共通になったり、日々の保育を自ら改善しようとする姿勢に支援できたりする機会となっている。

●アドバイザー連絡協議会で他市とのネットワークが広がっていることを感じていただけに、コロナ禍の中で、他市の研究会への参加、アドバイザー同士の情報共有の場が少なくなってしまったことは残念であった。

△アドバイザー同士のネットワークを強みに新しい保育の知識を得たり、他市のアドバイザーと情報交換したりしながら、実践を意義のあるものとしていきたい。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R元～R3)の成果と課題

○保育者の「質」の向上や園の組織をつくるマネジメントは、すぐに成果が出るものではないが、ひとつひとつの実践の積み上げがこれからも大事だと思う。保育には「正解」がないことから、実践し、振り返りを大事にしていこうという熱意が各園に出てきたことは、大きな成果である。そのためにも、仙北市独自の研修会の内容を精選したり、アドバイザーの訪問等を通してしながらか課題に添った内容を考えていきたいと思う。

○幼保推進課所管やキャリアアップ研修等で受けた研修内容は、保育や園内研修にいかそうとする学びが大きいと思われる。しかし、そのことにどんな意味を見出して実施するのかという明確さに欠けることもあり、職員の共通理解を図る難しさを感じていることもある。

○園内研修を深めたいという若手職員の意欲が高くなっている。

また、園内研修の年間計画にアドバイザーの参加が組み込まれてきたことも大きな成果であると捉えたい。

「研修テーマを決める」「研修内容を見直す」等、当日の研修参加ではなく、園内研修に関わる過程に関わっていくことができるように努めていきたい。

●「子ども達のために」という職員の思いを汲みながらの保育も、時に業務を多くしていることもあり、管理職して業務の見直しをするとともにカリキュラムマネジメントを考えていく管理職の力も求められている。

●研修の在り方や保育の充実に向けて、園にアドバイザーが入ったことで、変わってきた面があるかどうか等、アドバイザーの評価にふれながらPDCAサイクルを考えたい。

●市や園の課題等についての分析は、子育て推進課内でも検討できるように努めていきたい。